

# Get Heart

No. **38**  
2007. 3



特集

第12回 日野川への想いを語る会

日野川の歴史

第4回 日野川の漁業

米子市歴史館運営委員長  
杉本良巳さん

特別講演

「自然とのふれあいやすらぎの空間について」

橋井満義氏

第9回日野川フォトコンテスト表彰式

# 第9回日野川フォトコンテスト表彰式

第12回日野川への想いを語る会の中で第9回日野川フォトコンテストの表彰式が行われました。



## 特別講演

# 「自然とのふれあい やすらぎの空間について」

講師

日吉津村議会 副議長

橋井 満義 さん

**今、**431の皆生大橋の付近に「水辺の楽校」というテーマで、国交省さんに整備をして頂いておりますが、今日はこの事業の概要、過程について少し紹介させていただきます。

平成13年の後半ごろでしょうか？住民と行政メンバーで、委員会を組織して日吉津村の日野川環境整備計画を策定し、さらに国交省さんとの意見交換を重ね「水辺の楽校」として登録し、支援を受けながら、実現に向けた方向性を探ろう、ということになりました。そこで、子ども達の力を借り、「子ども達の視点から見た川とはどんなものか？」夏休みの課題として絵を書いてもらいました。集まった作品には、池の中に浮く家、公園、ボート、雨天多目的グラウンドなど、さまざまなアイデアが出てまいりました。中には「川で泳いでみたいな」というものもあり、今の子どもにもそういう気持ちがあるんだということも確認しました。こういった子ども達のアイデアを何とか形にしたいという思いから、集まってきた絵を元にメンバーの一人に無償で5つの絵をかいて頂き、計画書を国土省に提出したところ、その次の年、めでたく水辺の楽校の認定をいただきました。

計画書では、まず、日野川の河口付近は、魚釣りができるように流導堤を延長します。砂防柵を設け、砂浜を復元し、松を植えます。今は野鳥が来ている中州には、東屋(あずまや)を設けて、潜水橋をかけます。道路の反対側は、ギンナンと柳並木を設け、緑地化を推進します。431を渡ったト

イレがあるあたりは、防災ゾーンとして、ヘリポートにします。また、隣のトイレの非常時の電力を間に合わせるために風力発電も設けます。また、王子製紙付近の道路には、県の銘木百選に選ばれたハゼの木がありますが、今はもう枯れて1・2本になってしまいました。何とかこれも復元させていきたいと考えております。水辺にはヨシとショウブなど、さまざまな水生、根を張るもので汚れた土壌を緑化し、うちの役場の職員培養した螢を放します。また、子どもさんやお年寄りの方のために、車いすでも十分にある程度往来ができる緩いスロープも計画しました。自然の立ち木はそのまま残し、子ども達の親水エリアをきちっと確保します。それから、ここの土手は大変傾斜を緩くしていただいておりますので、段ボールをおしりに敷いて、ちょっとでも滑りおられるようなフィールドになっております。これから整備された施設をどのように使っていくか？が大きなテーマになると思っており、これが私たちの大きな務めでもあります。今後、日野川にかかわる連携をさらに密にすること、日野川の活性化を図っていくことが大切であり、日野川への想いを語る会の皆さんにもお力添えを頂きますようお願いいたします。



第12回目をむかえる「日野川への想いを語る会」がこのほど、日吉津村中央公民館にて開催されました。第9回日野川フォトコンテストの入賞者表彰式と特別講演が行われ、意見交換会ではテーマを「ふるさとの川を守りはぐくむ～よりよい日野川とするために～」として日野川流域の各市町村及び鳥取県と国土交通省日野川河川事務所が様々な取り組みを発表し、これからの活動についても提案があり活発な意見交換会が行われました。



## 意見交換会 テーマ「ふるさとの川を守りはぐくむ ～よりよい日野川とするために～」

### ボランティア団体に支えられて **日吉津村**



日吉津村 石 操 村長

面積が2キロ四方の日吉津村では、耕地と宅地の中に、あれだけの空間を求めることは不可能と思っていました。しかし、我が村、そして流域の皆さんのために本当にいい公共空間の整備ができたかなと思っております。近年、日野川、日本海の海岸も含めて、ごみの不法投棄が非常に目立っております。ボランティアの青少年、女性の会、男性の会が毎月清掃活動をして頂いておりますので、比較的きれいに保てておるのかなというふうに感じております。

### 川や水とのいい関係を **南部町**



南部町 坂本 昭文 町長

日野川水系、法勝寺川ということで参加させて頂いております。南部町には40年～50年生の桜堤がございますが、町民の精神的な支え、文化の基盤をなすところまで発展しております。そういう桜堤を通じて、川や水との関係をいい関係で保ってきたのではないかなと思っております。川の整備に10数年かかったそうですが、川についてはそれだけの時間も資金もかけて、腰を据えてやっていく、それで、それを次の世代にきちんと繋いでいくことが大切なんだなとつくづく感じました。

### きれいな水を提供したい **江府町**



江府町 竹内 敏朗 町長

江府町は、日野川流域ですが、もう一方、大山水系から大きな3本の渓流を受けています。江府町の町名は「水の集まる都」からきており、町にとって水はとても大切なものだと思っております。その意味では、やはり水を大切にし、水を活用した地域活性化を頑張っていきたいと考えておりますし、下流域の皆さんにきれいな水を提供していくという責任も果たしたいと思っております。という訳で、江府町にとって水は本当に大きなウエイトを占めてます。地域活性化に対して意識をしながら対応している状況でございます。

## 安心して頂ける水を **日野町**



日野町 景山 亨弘 町長

日野町は日南町の次の町で、河川整備もほとんど終わっておる状況です。今日の写真コンテストでラフティングの写真がありますが、川から眺めた日野川の周辺は道路から眺めた風景とは全く違い、町外から来られた方に「非常に環境がよい」「こんなに素晴らしいところはない」と非常に喜ばれております。私としても、この日野川の利用により、川を再認識して頂くことに力を入れていきたいと思っております。以前に比べ日野川も非常にきれいになりました。下流の皆さんに、安心して頂ける水を流すことが我々の使命であると町民一同心得て頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 下流域との交流を大切に **日南町**



日南町 矢田 治美 町長

日南町は一番日野川の上流にありますので、下流にきれいな水を流していきたいという基本的な考え方で、いろいろ今取り組んでおるところであります。過去、河川の中に「河川プール」をつくったりしましたが、大水が出るたびに土砂で埋まり、今はありません。それがきっかけで、「魚のつかみどり大会」など、地域で取り組んだりしております。さらに、川遊びをしながら地域が下流域の皆さんと一緒にイベントを通じた交流なども行っております。日野川の源流と流域を守る会ができたりする中で、下流域との交流というようなことも進んでおる状況がございます。

## 環境改善への意識を深める **伯耆町**



伯耆町 住田 圭成 町長

ふるさとの川を守りはぐくむ地域のボランティア活動等を通じて、日野川の現状を十分認識して頂き、環境の改善への意識を深めていくようにしております。また、小・中学生の理科の教科等を通して、水、生物などについて理解を深めるような取り組みをしております。やはり地域全体で守っていくという、そういう意識を醸成していくということが行政としても必要ではないかなと思っております。

## 運動施設の整備 **米子市**



米子市建設部 櫻田 恭一 次長

年に1回、日野川周辺の住民団体、米子市の場合ですと主に自治連合会ですが、その方々が「日野川を美しくする会」という会を組織されまして、一斉清掃のボランティア活動を行っておられます。これには子ども会なども参加しておられます。伯耆町から海岸までということで、一斉清掃を行っておられます。参加人員としましては、約2,200名ほどの人がこの一斉清掃に参加されてるというふう聞いておりますし、今後もこういう形で清掃ボランティアをやっていただきたいというふうにいるところがございます。

## 地域をはぐくむ河川整備事業

鳥取県日野総合事務所県土整備局



鳥取県日野総合事務所県土整備局  
播磨 振作 局長

日野総合事務所の「日野川の源流と流域を守る会」では、上流に植林を進める、木の管理を進める、などの活動を進めております。各市町村の方でも、かなり力を入れておられるようですし、それをお手伝いするのが我々の役目ではないかと思っております。また、日野郡では高齢化が進み、お年寄りが多いのですが、元気なお年寄りも多く、住民の皆さんがお手伝いをして頂くようなシステムが出来上がっております。それはまた地域をはぐくむ河川環境整備事業として、今後も引き続き進めていきます。

## 地域の皆さんと一緒に

鳥取県西部総合事務所県土整備局



鳥取県西部総合事務所県土整備局  
仲田 和男 局長

資料の中に米子の加茂川の事例を幾つか載せております。河川に携わる者として、地域の皆さんと一緒に成ったの河川整備、あるいは環境整備ということが大きな前提と考えておまして、河川改修、あるいは河川環境ということに住民の皆さんの力をかりていこうと、今一生懸命考え、事業実施をしておるところでございます。原則的には、とにかく皆さんと一緒に成って考えながら、データをみんな共有していこうと思っております。

## 良好な水辺を

鳥取県県土整備部河川課



鳥取県県土整備部河川課  
田中 俊一 課長補佐

良好な水辺ということで、先ほど水辺の楽校をご紹介いただきまして、維持管理等といったことも非常に大変ではないのかと思いました。これは、行政だけではできないことではないかなと思います。これから、住民の方々が、こういった水辺の楽校等を利用できる、利用していられる一つの大きなハードルではないかと考えておるところでございます。

## 水辺の楽校

日野川河川事務所



国土交通省日野川河川事務所  
森川 数美 所長

私どもの整備を行っています「日吉津水辺の楽校」が、今年度完成いたします。是非、皆さんに利用していただきたく思います。また、日野川への想いを語る会の中でイベントを行うなど工夫していくなど、多くの皆さんが、参加・利用していただけるよう考えていきたいと思っております。

日野川への想いを語る会も12年経ち、子どもでいえば小学校をするといった回数を重ねてきました。よりよい川とするためにも今後、流域全体でまとまった目標を立てていく必要があると考えていますので、ご協力をよろしくお願い致します。

# 日野川の歴史

## 第4回 日野川の漁業

杉本 良巳さん (米子市歴史館運営委員長)



大正11年の鮭漁

かつて日野川・天神川・千代川のアユ、湖山池や東郷湖のフナ、そして錦海のごす(ハゼ)を「鳥取県の三魚」といって、その珍味を愛でた。もとより鳥取県の川や海では高級で美味な魚が豊富に獲れる。にもかかわらずこれら三魚が持て囃されたのは、その庶民性にある。多くが自家用に供され、三魚によって生計を立てようとする者は至って少なく、休日利用の釣りを楽しむ人々の対象でしかなかった。こうした状況は昔も今も変わっていない。

『日野町誌』は「郷土における水産状況としては、日野川あるいはその支流で、アユ、コイ、フナ、ウナギ、ウグイその他が副業的に漁獲される程度で、本業としていわゆる水産業に従事する者はいない」と断定しているが、20年前程まではアユの漁獲で年間300万円近くの収入を得ていた人が数名いた。もとより専業である。

また、日野町や南部町では古来養鯉が盛んであった。冬期間の蛋白質の補給、来客の接待、鑑賞、さらには残飯の後始末まで鯉にさせていた。戦後、こうした状況が変わっていったのは河川の治水工事の在り方、農業や家庭排水による水質悪化によると考えられる。

大正12年発行の『皆生温泉案内』には、「日野川河口の鮭漁」と題して、「仲秋の候、産卵のため淡水をたすねて上るのを待ち、川尻に漁具をたすさえたる無数の漁夫、先を争うて漁獲するの状、真に壮快を極む。新鮮なる一尾の晩さんの膳部に上るのも、また温泉土産の一つである」と記し、日野川河口の鮭漁が盛んであったことを伝えている。

昭和10年の『米子自治史』には車尾の水産業について「アユ246kg、サケ459kg、コイ195kg、ウナギ135kg」とあるから、昭和10年頃には、まだサケが獲れていた。それが戦後の29年頃になると、アユ年産5000万円、ウグイ1000万円、ウナギ250万円、コイ200

万円(『米子市実態調査』)となり、サケは完全に姿を消し、コイもまた減少した。代わってウグイの水揚げが見られるようになった。当時、日野川水系漁業協同組合の正組合員(3か月以上漁業に従事する人)は約200人であったのに対し、準組合員は約400人いて、日野川の漁業が趣味の釣りとなっていることを物語っている。

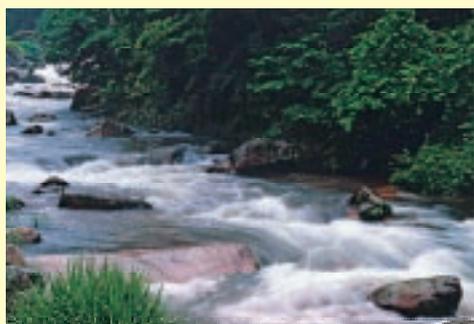
ところで現在、日野川にはどんな種類の魚が生息しているのか、環境庁や鳥取県水産課の調査によれば、魚類で51種類以上、エビ・カニの甲殻類で5種類である。しかし、それ等の魚類は日野川全域に見られるのではなく、上流と下流では異なる。

- 上流に住む魚—アマゴ・タカハヤ
- 上流～中流に住む魚—ウグイ・カワヨシ・ノボリ・シマドジョウ
- 中流～下流に住む魚—アユ・カマツカ・ムギツク・ヨシノボリ
- 下流に住む魚—コイ・フナ・カマキリ

全域に住む魚もいる。例えばカワムツ・ドンコ・オオカワなどである。40年以前と67年に調査した結果、タカハヤ・フナ・ドンコなどは増え、他の魚はおしなべて減少している。その一方、一時期姿を消していたサケやシロウオが帰って来たのは嬉しいことである。平成18年秋、日野川漁協が捕ったサケは1237匹に達した。

“温泉名物数々あれど、鮎の巻鮓、鮭なます”

と謡われたように、再び日野川のサケが皆生温泉の名物になれば、これまた楽しい限りである。しかしそうなるには、それなりの努力が必要である。日野川漁協では稚魚の放流を続けている。近年の実績はアユ400万匹、ヤマメ10万匹、サケ15万匹、ウナギ850匹、コイ20万匹(コイヘルペスのため一時中止)である。また、アユの産卵場のため、組合員のボランティアで石1つ1つを裏返す仕事も行われている。豊かな日野川を目指す多くの人々の存在を忘れてはならない。



第9回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 進藤 ふじ子さん  
撮影場所：日野川(石霞溪)

### 編集後記

新年をむかえたのはつい先ほどのような気がしますが、もうすぐ春を迎えるような季節となりました。今回の特集では、日野川への想いを語る会を取り上げましたが、皆様方の発表を聞いてみると、それぞれが、それぞれの立場で日野川に対しての想いがありながら故郷の川である日野川を大切にしなければならないという想いは、やはり同じなのだということを感じました。今後も地域の皆様方とともに愛される川づくりを益々すすめることができるといった想いをあらためて感じた日でした。

あなたのところを

# GET HEART

GET HEART  
第38号

編集事務局  
・国土交通省日野川河川事務所

〒689-3537  
米子市古豊千 678  
TEL (0859) 27-5484

発行  
・日野川への想いを語る会

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>